

法律科目試験問題（刑法） 配点 50 点

次の【事例】を読み、甲、乙の罪責を論じなさい（特別法違反の点を除く。）。

【事例】

1. Aゲームソフト会社の商品開発部長である甲は、賭け事が好きで、そのために複数の消費者金融および友人である乙から合計 500 万円余の借金があり、返済どころか月々の金利の支払いにも追われていた。2014 年 9 月某日、甲は、多重債務者のブラックリストに名前が載っていたために新たな借入れが困難となったこともあり、乙に相談したところ、乙も、甲がさらに消費者金融から借入れることで、自分が甲に貸した金を少しでも返済してくれることを期待して、「知り合いの B の名前を使って借り入れたらよい」と申し向けて、B の本籍や住所等の情報を甲に教えた。
2. 甲は、自己名義の運転免許証の該当欄上に、B の氏名、本籍、住所、免許証番号等を書いた紙片を置き、上からメンディングテープを全体に貼り付けて固定し、甲が B であるかのような外観を持つ大阪府公安委員会名義の運転免許証を作成した。その後、甲は、某金融会社支店の自動契約受付機のイメージスキャナーに上記運転免許証を読み取らせ、同イメージスキャナーと回線で接続された同支店設置のディスプレイ上にこれを表示させたため、対応した同支店係員 C は、上記免許証が真正に作成されたものであると誤信した結果、B 名義のローンカードを発行して甲に交付した。
3. その後甲はますます困窮し、乙に対する返済が滞り、乙自身も急にまとまった金が必要になったため、甲に対し、「お前が管理している新商品開発に関する機密情報を、ライバル会社の D が 1000 万円を買いたがっているのだから、何とか持ち出せないか。成功したら代金は折半し、お前の俺に対する借金も帳消しにしよう。」と持ちかけた。
4. 2014 年 12 月某日、甲は深夜残業中に、部長である自己だけが鍵を持つことで事実上管理しているロッカー内から、新商品開発に関する機密情報が記録された A 社のコンパクトディスク 1 枚（ディスクの価格 100 円）を取り出した上、同じ部屋にあるパソコンを操作して、同ディスク内の機密データを甲所有の USB メモリ（USB の価格 500 円）に複写し、複写した後のコンパクトディスクは元のロッカー内に戻した上、新たにデータを複写した USB を社外に持ち出した。
5. その 3 日後、予め連絡してあったライバル会社の D と喫茶店で落ち合い、A ゲームソフト会社の新商品開発に関する機密情報が記録された甲所有の USB メモリを手渡し、引き換えに紙袋に入った現金 1000 万円を受け取った。
6. 1 週間後、甲は乙を甲宅に呼び出し、当初の約束通り 1000 万円を折半した 500 万円を乙に手渡し、乙からの借金も帳消しにするという合意を取り付けた。